

基準 7 施設・設備及び学生支援

(1) 観点ごとの分析

観点 7-1-①： 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。

また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

本学は、校地において大学設置基準面積の約 3.3 倍（附属施設を除く）、校舎において約 1.8 倍の施設（大学現況票施設・設備及び学生支援【基準 7】（以下「大学現況票基準 7」）校地等）を備え、学生の教育や教員の教育研究活動の実施に必要な施設を有している。

体育施設は、体育館（2 棟）、屋内運動場、陸上競技場、野球場、サッカー・ラグビー場、テニスコート、プール及びクラブ・サークル活動等の授業や課外活動に必要な施設（大学現況票基準 7 体育館その他施設）を備えている。

講義室等については、共通教育校舎をはじめ、各学部の多くの講義室にモニター設備等を備え、e-learning 等の情報機器を利用した教育に必要な各種マルチメディア関連装置を設置している（大学現況票基準 7 教室等施設）。

附属図書館は、上浜キャンパス内に全学図書館及び医学部図書館を設置（大学現況票基準 7 図書館・図書資料等）している。特に全学図書館は、地域に開かれたプラットフォームである環境・情報科学館と一体化して、環境教育・研究成果の情報発信の場として、図書館機能を充実させている。

社会連携研究センター及び生命科学研究支援センター（大学現況票基準 7 附属施設）は、全学の教職員・学生のほか民間企業との共同研究の場としても利用されており、共同利用が可能な大型の教育研究用設備が整備され、学内及び関係する学外の研究者にも開放している。

また、中期目標の施設整備・活用等に関する目標のなかに、キャンパス環境に関する目標を掲げ、上浜キャンパスの整備・美化を推進している。

資料 7-1-①-A 中期目標（抜粋）

1 (キャンパス環境)

三重大学の特色である三翠（空、樹、波のみどり）と伝統を生かした、人と自然が調和・共生する潤いのあるキャンパス環境を創出する。

（出典：三重大学中期目標 http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/2nd_2011_obj.pdf）

施設の整備状況については、国の「国立大学等緊急整備 5 年計画」を受けて、学術研究の進展や教育研究の高度化・多様化に対応するため、平成 22 年 2 月に「三重大学キャンパスマスタープラン」（別添資料 7-1-①-1、別添資料 7-1-①-2）を策定し、キャンパス整備の基本的な考え方を決定した。また、中期目標の施設整備・活用等に関する目標として、「全学的な視点に立

った施設マネジメントを推進するとともに、大学の教育・研究等の活動に必要な施設・設備等の整備・充実に継続的に推進する。」としており、施設の点検・調査等（別添資料 7-1-①-3）による施設の有効活用、建物の構造体の耐震化（別添資料 7-1-①-4）等、安心・安全な教育研究環境の確保や老朽施設の解消に努めることとしている。また、大学構内の主要な建物の入口には入退館システムを導入し、セキュリティの強化を図っており、建物の耐震化については、平成 26 年度をもって完了する。平成 24 年度教育満足度調査でも「学内の安全管理システム」について、4.18 点（評価範囲 1～5）と、高く評価されている（別添資料 7-1-①-5）。

施設・設備のバリアフリー化については、ハートビル法（高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律）の一部改正に伴い、学校施設がバリアフリー化の努力義務の対象に位置づけられたことから、本学では安全かつ円滑な学校生活が送れるように平成 20 年度にユニバーサルデザイン基本計画書（別添資料 7-1-①-6）を策定し、計画的にバリアフリー化を推進（別添資料 7-1-①-7）している。

別添資料 7-1-①-1	三重大学キャンパスマスタープラン
別添資料 7-1-①-2	三重大学 5 か年計画
別添資料 7-1-①-3	施設利用状況調査
別添資料 7-1-①-4	三重大学耐震化状況について
別添資料 7-1-①-5	学生の教育に対する満足度（平成 24 年度 三重大学教育満足度調査）
別添資料 7-1-①-6	三重大学バリアフリー化推進計画
別添資料 7-1-①-7	バリアフリー化の整備状況等について

【分析結果とその根拠理由】

校地・校舎については、大学設置基準上必要な面積を大きく上回っている。

施設・設備についても教育研究活動を推進する上で必要な施設・設備を整備し、有効に活用している。

また、キャンパス整備については、安全で快適な環境整備を進めているとともに、各学部等の老朽化建物は、「5 年整備計画」を策定し、整備対象を明示している。

以上のことから、教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備されているとともに、有効に活用され、施設・設備の耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面についても配慮がなされていると判断する。

観点 7-1-②： 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点到に係る状況】

総合情報処理センターを中心として、研究用・教育用・無線・事務用の 4 つの LAN から構成されたセキュアな高速キャンパスネットワークが構築され、学内のあらゆる所から利用できる環境を整備している。特に、上浜地区については病院地区を除いて、一般教室等をほぼ全てカバーする無線 LAN が利用でき、学生・教員各自のノートパソコンやタブレット端末等のモバイル機器から学内ネットワークに接続し、IT 支援を受けることができる環境を整備している（資料 7-1-②-

A)。また、生物資源学研究科附属の練習船「勢水丸」及び紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター（農場、演習林、水産実験所）はいずれも上浜地区から離れた地域にあるが、それらの施設においても、上浜地区との連絡体制を含む、教育研究活動に支障のないようネットワーク整備がなされている。（別添資料 7-1-②-1）

学生が利用可能な教育用パソコンは、総合情報処理センターの情報教育教室のほか、附属図書館、環境・情報科学館、各学部の IT 関連講義室、電算演習室等に設置し、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどの基本ソフトのほか、サイトライセンスソフトとしてウィルス対策ソフト、統計ソフト（SAS）、数値解析ソフト（Matlab）等が導入され、さらに英語自習用システムや e-learning システムが利用可能で、学生が自由に利用できる環境が整っており、平成 24 年度教育満足度調査でも「大学構内で使える情報機器の充実（評価範囲 1～5）」について、4.34 点と、高く評価されている（資料資料 7-1-②-C、資料 7-1-②-D、別添資料 7-1-②-2）。

また、学生の履修登録は、学内の教育用パソコンあるいは個人用パソコンから学生が登録でき、休講情報等の案内については、学内の教育用パソコン、各学部の電子掲示板だけではなく携帯電話等からも閲覧することができる。教職員が使用するパソコンも学内 LAN に接続され、学生への情報提供、学生のニーズ把握等に利用されている。

教育用 LAN 及び無線 LAN はセキュリティにも配慮し、利用にあたっては認証を必要とし、ログインのための統一アカウントを教職員、学生に発行している（資料 7-1-②-E）。

セキュリティについては、情報セキュリティポリシーを定め、最高情報セキュリティ責任者に研究・情報を担当する理事を充て体制を整備している（資料 7-1-②-F）。

資料 7-1-②-A 三重大学総合情報処理センター利用ガイド（無線 LAN ネットワーク）

<http://www.cc.mie-u.ac.jp/cc/guide.html>

資料 7-1-②-B 語学 e-learning システム（TOEIC 英語自習システム）

<http://www.cc.mie-u.ac.jp/cc/ana/index.html>

資料 7-1-②-C 三重大学 Moodle

<http://portal.mie-u.ac.jp/moodle/>

資料 7-1-②-D 教育用システム

<http://www.cc.mie-u.ac.jp/cc/edusystem/index.html>

資料 7-1-②-E 統一アカウント

<http://www.cc.mie-u.ac.jp/cc/uniacct.html>

資料 7-1-②-F 三重大学情報セキュリティポリシー（基本方針）

<http://www.cc.mie-u.ac.jp/cc/policy/policy.html>

別添資料 7-1-②-1 インターネット及びキャンパス間接続回線の増強と本学インターネットトラフィックの推移

別添資料 7-1-②-2 学生の教育に対する満足度（平成 24 年度 三重大学教育満足度調査）

【分析結果とその根拠理由】

学生が利用可能な教育用パソコンは、総合情報処理センターの情報教育教室のほか、附属図書館、環境・情報科学館、各学部の IT 講義室、電算演習室等に設置しており、上浜地区のほとん

どの場所から無線 LAN によるアクセスが可能となっている。教職員についても、全研究室・事務室において、学内 LAN が整備され、ネットワークを利用した各自のニーズに合わせた各種の情報取得・伝達、学生への情報提供やニーズ把握に利用されている。また、情報セキュリティポリシーに基づき、本学の情報ネットワーク等の安全な運用を図っている。

以上のことから、教育内容、方法や学生のニーズを満たすための学内情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されていると判断する。

観点 7-1-③： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点到係る状況】

附属図書館は、「研究支援機能」「学習・教育支援機能」「地域貢献機能」の3つの機能をサービスの3本柱に据え、研究や教育・学習に必要な学術情報を広く収集・提供するとともに、階層ゾーニングによる多用な学習空間（上層階ほど静かな空間配置とする）を学生及び教職員に対し提供している（資料 7-1-③-A）。また、途中階を隣接する環境・情報科学館と接続して一体運用を図り、学習ニーズに柔軟に対応できる構造としている。蔵書数（和洋書）は約 94 万冊であり、電子ジャーナルを含む学術雑誌、及び映画等の DVD もそろえ、教育研究上必要な資料とそれらの閲覧の場を提供している（大学現況票、別添資料 7-1-③-1）。図書や雑誌、電子ジャーナル等の購入は、附属図書館運営委員会により、予算配分、選定作業を行っており、施設利用の促進については、各学部に対し、利用案内及び開館カレンダーを配布するとともに、図書館入口にも設置するなどして周知を図るほか、新入生に対する図書館ツアーの実施、機関誌「学塔」の発行を年2回行っている（資料 7-1-③-B）。これらの取組みは平成 24 年度教育満足度調査「学習に必要な図書・論文雑誌・データベース等の電子情報の充実度（評価範囲 1～5）」の中で、4.15 点と、高く評価されている（別添資料 7-1-③-2）。

資料 7-1-③-A 館内マップ

<http://www.lib.mie-u.ac.jp/guidance/map/>

資料 7-1-③-B 学塔

http://www.lib.mie-u.ac.jp/about_library/gakuto/

別添資料 7-1-③-1 蔵書冊数等（三重大学附属図書館概要 2013 抜粋）

別添資料 7-1-③-2 学生の教育に対する満足度（平成 24 年度 三重大学教育満足度調査）

【分析結果とその根拠理由】

附属図書館が改修工事を経て、より充実した設備を有する施設となり、隣接する環境・情報科学館及び総合情報処理センターとの連携も含めて十分に整備されたものとなり、施設の利用案内、広報等の周知も相応に実施し、資料の系統的収集・整理もなされ、有効に活用されていると判断する。

観点 7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

【観点に係る状況】

附属図書館は環境・情報科学館と一体化されたラーニングコモンズとして、平日は 21 時 45 分まで、また、定期試験期間中は休日開館などを行い（資料 7-1-④-A）、自主的学習環境を提供している。また、演習室、実習室及び学生共用スペースなどが自主的学習の場として利用されている（資料 7-1-④-B）。これ以外に、空き教室の他、校舎内の廊下等のスペースに椅子やテーブル等を設置し、自主的学習場所として活用している。

IT 学習環境面では、基本ソフト、統計・画像処理ソフト、英語自習ソフト等を搭載したパソコンを、図書館、環境・情報科学館、コンピュータ室等に配置し、授業等で利用する以外にも、自由に利用できるようにしている（資料 7-1-④-C）。また、全学の教室・演習室に無線 LAN システムが整備され、学生は自由にインターネットが利用できる。

平成 24 年度教育満足度調査においても、学習環境に対する満足度として「自己学習（主体的学習）ができる環境」「大学内で自由に使える情報機器の充実（評価範囲 1～5）」等の評価を求めている、全体で 4.08 点、4.34 点と高く評価されている。（別添資料 7-1-④-1）

資料 7-1-④-A 平成 25 年度三重大大学附属図書館開館カレンダー

http://www.lib.mie-u.ac.jp/calendar/cal_year.pdf

資料 7-1-④-B 環境・情報科学館 3 階 PBL 演習室

http://www.lib.mie-u.ac.jp/info_education/concierge/LibCS1.pdf

資料 7-1-④-C 図書館利用案内（館内パソコンを利用する）

<http://www.lib.mie-u.ac.jp/guidance/student/#computer>

別添資料 7-1-④-1 学生の教育に対する満足度（平成 24 年度 三重大大学教育満足度調査）

【分析結果とその根拠理由】

演習室、実習室、学生共用スペース、附属図書館などが自主的学習の場として利用されている。また、学内各施設に学生が自由に利用できるパソコンも配置されている。学習環境についての満足度は高いことから、自主的学習環境が十分整備され、効果的に利用されていると判断する。

観点 7-2-①： 授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

入学式前後に、全学的に共通教育と各学部専門教育の履修指導や専攻の選択方法等のガイダンスを行っており、在学生についても講座配属、研究室（ゼミ）配属等の必要なガイダンスを適切な時期にそれぞれ実施している（別添資料 7-2-①-1、資料 7-2-①-A）。

また、各研究科においても、新入生に対する履修指導や研究指導計画等のガイダンスを行っている。

平成 24 年度教育満足度調査の「授業履修に役立つ適切なガイダンス（評価範囲 1～5）」によれば、入学時や研究室分属を行う 3 年次を含め、全ての学年において 3.8 点以上の高い満足度を示している（別添資料 7-2-①-2）。

資料 7-2-①-A 各学部・研究科におけるガイダンスの実施状況

学部名	対象者	実施時期	実施内容
人文学部	新入生	4 月	履修案内, 学生生活, 教員免許等
	新 2 年生	3 月	履修ガイダンス (文化学科のみ)
教育学部	新入生	4 月	履修案内, 学生生活, 教員免許等
	新 2 年生	4 月	介護等体験ガイダンス
	新 3 年生	4 月	4 週間教育実習オリエンテーション
	新 4 年生	4 月	2 週間教育実習オリエンテーション
	4 年生	7 月	教職実践演習ガイダンス
	1 ～ 4 年生	学年別に 年に数回	学びのあしあとの会 学修の目標設定及び省察と記録
医学部	新入生	4 月	履修案内, 学生生活, 免許等
	新入生	4 月	地域基盤型保健医療実習ガイダンス
	新入生	9 月	初期医学体験実習ガイダンス
	3 年生	6 月	研究室研修ガイダンス
	3 年生	6 月	PBL-Tutorial 教育ガイダンス
	4 年生	1 月	臨床実習ガイダンス
	5 年生	12・3 月	エレクトティブ説明会
医学部 (看護学科)	新入生	4 月	履修案内, 学生生活, 免許等
	新 3 年生	4 月	ゼミ配属ガイダンス
	新 3 年次編入生	3 月	入学前オリエンテーション, カリキュラム, 単位認定
	新 3 年次編入生	4 月	履修案内, 学生生活, 免許等
工学部	新入生	4 月	学部案内, 履修指導
	3 年生	後期	研究室配属ガイダンス
生物資源学部	新入生	4 月	学部案内, 履修指導, 学生生活
	1 年生	後期	講座説明会, 研究室見学会
	2 ～ 3 年生	随時	研究室配属ガイダンス
	資格・免許取得希望者	3 月 8 月	学芸員養成課程ガイダンス 教職課程ガイダンス
人文社会科学研究科	新入生	4 月	履修案内, 研究指導計画, 教員免許等
教育学研究科	新入生	4 月	履修案内, 研究指導計画, 教員免許等
医学系研究科	新入生	4 月	履修案内, 研究指導計画等
	新入生 (日本人)	1 0 月	履修案内, 研究指導計画等
	新入生 (外国人留学生)	1 0 月	履修案内, 研究指導計画, 諸手続等
工学研究科	新入生	4 月	履修案内, 研究指導計画等
生物資源学研究科	新入生	4 月	履修案内, 研究指導計画等
地域イノベーション 学研究科	新入生	4 月	履修案内, 研究指導計画等
	1 年生	6 月	インターンシップ研修事前説明会

(出典：各学部・研究科提供資料を基に作成)

別添資料 7-2-①-1 新入生オリエンテーション行事日程

別添資料 7-2-①-2 授業履修に役立つ適切なガイダンス (平成 24 年度教育満足度調査)

【分析結果とその根拠理由】

授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスは、入学時やそれ以降の適切な時期に実施している。また、ガイダンスに関するアンケートでも、満足度は高いことから、ガイダンスは適切に実施されていると判断する。

観点 7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

【観点到係る状況】

各教員は、シラバスにオフィスアワーやメールアドレスなどの連絡方法を記し、質問等に対応している（資料 7-2-②-A）。

全ての学部で学生指導・支援担当教員（チューター制度）を置き、よりよい学生生活実現のために教員が学生生活全般にわたるアドバイザー（チューター）となり、履修計画・学習方法、トラブル対応、健康や悩み等の相談に応じることとしている（資料 7-2-②-B）。

学習内容に関する学生のニーズは、個別にオフィスアワー等で把握されており、平成 24 年度教育満足度調査では、「教員による個別の学習支援や生活支援（評価範囲 1～5）」は、4.10 点と高い値を示し、約 80%の学生が満足している（別添資料 7-2-②-1）。

また、「学生なんでも相談室」（専任カウンセラー 1 名、非常勤心理カウンセラー 5 名、インテーカー 1 名）が学生の学業、友人関係、将来の進路等の相談に対応しているほか、学部に置かれた「学生なんでも相談室分室」においても学業や人間関係等に関する相談を受け付けている（資料 7-2-②-C，資料 7-2-②-D）。

学生からのニーズは、教育満足度調査によって「学習を進める上で大学に必要なと思われるニーズ」を組織的に把握しており、平成 24 年度の調査では「学習環境の整備」「履修指導」「自分の研究に関するアドバイス」の 3 項目が、それぞれ 47.2%、41.8%、39.5%と、ほかと比べてニーズの高い項目であった（別添資料 7-2-②-2）。

留学生に対しては、国際交流センターの教員がオフィスアワーを週 1 コマと昼休みに時間を設定して、日本語授業の履修に関する相談や補習など、学習支援を行っている（資料 7-2-②-E）。

また、各学部には留学生担当教員が配置されており学部単位での留学生への支援を行っている。さらに、日本人学生がボランティアで留学生の学習サポートを行う「日本語学習サポートプログラム」も行っている（資料 7-2-②-F）。

社会人学生には、大学院設置基準第 14 条の教育方法の特例に基づき、教育を実施している。また、人文学部において、科目等履修生、社会人入学の学生と執行部との間で懇談会を開催するなど、必要な学習支援が進められている。

障害を持つ学生に対しては、バリアフリー化や専用の机、身障者用トイレの設置など、学習環境面での支援が進められており、授業担当教員が受講時間を配慮するなどの支援をしている。平成 24 年度からは、工学部の聴覚障害のある学生のためにノートテイクによる支援を行うなど、ハード面とソフト面の両面における支援体制が構築されている。

また、平成 25 年度から、学生総合支援センターに、障害のある学生が学修及び研究を行う上

で必要な支援を行うとともに、全学的立場から障害のある学生に対する生活指導体制を整備することを目的とする障がい学生支援室を設置し、障害のある学生への支援体制を強化した（資料 7-2-②-G）。

資料 7-2-②-A 三重大学ウェブシラバス（オフィスアワー・メールアドレスの記載例）

担当教員	○平山大輔(教育学部), 守田庸一(教育学部), 朴恵淑(人文学部)
	○HIRAYAMA Daisuke, MORITA Yoichi, Paku Keisyuku daisuke@edu.mie-u.ac.jp, morita@edu.mie-u.ac.jp
1人1の指導	
学習の目的と方法	
授業の概要	企業・NPOにおける環境実務への参加を通して、企業やNPOの行っている環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を習得することをねらいとする。本年度は、インターンシップ受入れ先として、(株)東芝(四日市工場)、ミキモト真珠島真珠博物館、亀山市環境保全対策室、三重県地球温暖化防止活動推進センター、伊勢商工会議所、NPO法人地域の未来・志援センター(エコデザイン市民社会フォーラムと合同)、伊賀の里モクモク手づくりファームを予定している。
学習の目的	企業・NPOにおける環境実務への参加を通して、企業やNPOの行っている環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を習得する。
学習の到達目標	環境分野で仕事をするということはどういうことなのかを実務経験を通して理解できるようになる。 実務の場で必要な責任感・誠実さ・プレゼンテーション能力を身につける。
ディプロマ・ポリシー	○学科・コース等の教育目標 ○全学的教育目標 - 感じる力 ○感性・共感・倫理観 ○モチベーション ○主体的学習力 心身の健康に対する意識 - 考える力 - 幅広い教養 専門知識・技術 論理的思考力 課題探求力 問題解決力 批判的思考力 - コミュニケーション力 - 情報受容能力 ○討論・対話力 指導力・協調性 ○社会人としての態度 実践外国語力 - 生きる力 ○感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力
授業の方法	講義 演習 実習
授業の特徴	PBL キャリア教育の要素を加えた授業
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価方法と基準	インターンシップ等における学生の評価に基づき、総合的に判断する
オフィスアワー	毎週木曜日 12:00～13:00、教育学部1号館2階 平山研究室

資料 7-2-②-B 学生指導・支援担当教員

<http://www.mie-u.ac.jp/students/support/tutorial.html>

資料 7-2-②-C 学生なんでも相談室

<http://www.mie-u.ac.jp/life/consultation/index.html>

資料 7-2-②-D 学生なんでも相談室 医学部分室

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/campuslife/sodanshitsu.p> ウェブサイト

資料 7-2-②-E 国際交流センターオフィスアワー

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/class/post-65.html>

資料 7-2-②-F 日本人学生による日本語学習サポート

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/life/study-support/index.html>

資料 7-2-②-G 障がい学生支援室

<http://www.mie-u.ac.jp/life/supportstudents/index.html>

別添資料 7-2-②-1 学生の教育に対する満足度（平成 24 年度 三重大学教育満足度調査）

別添資料 7-2-②-2 学習を進める上で大学に必要と思われるニーズ（平成 24 年度 三重大学教育満足度調査）

【分析結果とその根拠理由】

教育満足度調査などにより、学習支援に関する学生のニーズが把握されている。

オフィスアワーのシラバスへの記入、チューター制度（学生指導・支援担当教員制度）、学生なんでも相談室等の多様な相談窓口、学生支援制度により、学習相談、助言を適切に行っている。

国際交流センター専任教員によるオフィスアワー、日本人ボランティア学生による学習サポー

トプログラムを通じて留学生の学習支援を行っている。社会人学生には、授業開講時間、研究指導などで必要な対応が行われている。また、障害のある学生には、必要に応じてハード面とソフト面の支援がなされている。さらに、障がい学生支援室を新たに設置することにより、支援体制を強化している。

以上のことから、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われており、また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われていると判断する。

観点 7-2-③： 通信教育を行う課程を置いている場合には、そのための学習支援、教育相談が適切に行われているか。

【観点到係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 7-2-④： 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

【観点到係る状況】

学部学生の半数以上がクラブ・サークルに加入しており、加入率も上昇傾向で、学生のクラブ・サークル活動は非常に盛んである（別添資料 7-2-④-1）。

自治会は、各学部組織され、それらが連合会を作り、新入生オリエンテーションを実施したり、大学祭の実行主体となっている。本学は、同連合会に課外活動共用施設内に学生自治会室を設け、会議等の開催を支援している。

クラブ・サークル活動に対しては、学内の各種施設の開放と課外活動用施設の利用を認めている。また、各クラブ・サークルの団体代表者が参加する「クラブ・サークル連絡会」を開催し、大学からの連絡、指導を行うとともに、団体間の連絡調整も行われている。なお、顧問教員の役割及び団体代表者（学生）の役割を明らかにするため、「クラブ・サークル顧問教員指針」及び「クラブ・サークル代表者指針」を定めて指導を行っている。学生サービスチーム窓口では、クラブ・サークル活動に関する様々な相談を受けるほか、各種運動用具や行事用の物品などの貸し出し、学内合宿所や課外活動共用施設など課外活動用施設の修理や課外活動に関する用具の購入も行っている（資料 7-2-④-A、資料 7-2-④-B）。

大学祭実行委員会についても、活動拠点として課外活動共用施設の使用許可や、必要な物品を援助することにより、活動を支援している（別添資料 7-2-④-2）。また、学長と大学祭実行委員との懇談会も継続的に開催し、学生との率直な意見交換ができる場を設けている（資料 7-2-④-C）。

さらに、学生生活支援室において、ボランティアに関する情報提供を行うほか、学内 4 団体（サークル）による「三重大学学生ボランティア推進協議会」への活動場所の提供など、さまざま

まな形でボランティア活動についても支援を行っている（資料 7-2-④-D，資料 7-2-④-E）。また，東日本大震災をきっかけに発足した，本学学生が主体となって支援活動等を行う三重大学災害ボランティア支援団体「MUS-net」にも必要物品の貸与等の支援を行っている（別添資料 7-2-④-3）。

このほかに，本学には，学生の自由な発想で本学の学生生活支援や大学活性化に寄与する学生委員会として，「ピアサポーター学生委員会」「環境 ISO 学生委員会」「三重大学ユネスコスクール学生委員会」等がある。これらの学生委員会には，キャリア教育と関連する他，学内組織である学生総合支援センターや国際環境教育研究センター等が関与しており，経費・運営の両面から支援を行っている（資料 7-2-④-F，資料 7-2-④-G）。

資料 7-2-④-A 課外活動等

<http://www.mie-u.ac.jp/students/activities/>

資料 7-2-④-B 課外活動等

【別冊 3】学生便覧 p 40

資料 7-2-④-C 学長と大学祭実行委員との懇談会

<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2013/10/post-704.html>

資料 7-2-④-D ボランティア活動募集一覧

<http://www.mie-u.ac.jp/topics/student/H24volunteer.pdf>

資料 7-2-④-E ボランティア活動

【別冊 3】学生便覧 p 44

資料 7-2-④-F ピアサポーター学生委員会

<http://www.mie-u.ac.jp/life/peer/>

資料 7-2-④-G 環境 ISO 学生委員会の活動状況

<http://www.gecer.mie-u.ac.jp/student/>

別添資料 7-2-④-1 課外活動団体参加者数

別添資料 7-2-④-2 第 65 回三重大学祭物品援助願い

別添資料 7-2-④-3 MUS-net（三重大学災害ボランティア支援団体）

【分析結果とその根拠理由】

学生のクラブ・サークル活動は非常に盛んであり，学内施設の利用を認め，経費面でも支援を行っている。連絡調整の機会も定期的に設けており，顧問教員指針やクラブ・サークル代表者指針も定め，安心して活動ができるようにしている。また，大学祭実行委員会や，学生のボランティア活動，学生委員会に対する支援も行っており，学生の課外活動が円滑に行われるよう適切に支援している。

以上のことから，学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われていると判断する。

観点 7-2-⑤： 生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切

に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて生活支援等が行われているか。

【観点に係る状況】

学生総合支援センターは、本学の学生の修学、就職及び生活等への支援体制を整備し、充実した学生生活の実現を図ることを目的として設立され、学生生活支援室、障がい学生支援室、学生なんでも相談室、キャリア支援センターの4つの施設から構成されており、総合的な学生支援を行っている（資料 7-2-⑤-A、資料 7-2-⑤-B、資料 7-2-⑤-C、資料 7-2-⑤-D、資料 7-2-⑤-E、資料 7-2-⑤-F）。

学生なんでも相談室では、個人的諸問題等の相談に応じ、インテーカー（非常勤）が相談来訪の受付等を行い、必要に応じてカウンセラー（専任1名、非常勤5名）及びアドバイザー（医学系研究科教員）が助言・指導を行っている（資料 7-2-⑤-G）。

保健管理センターでは、教員（医師）及び看護師等が専門的な立場から“こころ”と“からだ”の両面の健康相談に応じている（資料 7-2-⑤-H、資料 7-2-⑤-I）。

キャリア支援センターでは、各学部・研究科の就職担当教員、インターンシップ担当教員及び学務部就職支援チーム職員等が連携して、全学的にキャリア教育、インターンシップ及び就職活動支援を推進している。さらに、キャリア・ディベロップメント・アドバイザー資格を取得した相談員が、学生の進路・就職相談に応じている。この結果、学部卒業者の就職率は、平成23年度96.6%から、平成24年度96.5%、平成25年度96.9%と高い率で推移している（前掲別添資料 6-2-①-1、別添資料 7-2-⑤-1～3）。

ハラスメント問題の対応については、学長の下に危機管理担当副学長を委員長とする「三重大学ハラスメント対策委員会」が設置され、ハラスメント防止のための啓発や発生時の対応を行っている。また、アカデミックハラスメント・セクシャルハラスメントに関する相談窓口が設置されるとともに、22名の相談員が配置され、被害者等からの相談を受ける体制が整備され機能している（資料 7-2-⑤-K）。

生活支援に関する学生のニーズは、担任教員等による面談や指導等を通して把握している。平成24年度の教育満足度調査では、「生活をする上で必要だと思う大学の支援」として「進路・就職相談」「奨学金」が挙げられていた（62.2%、49.7%）（別添資料 7-2-⑤-4）。

また、学生向けに、三重大学生コミュニティー誌「MIU（ミウ）」を年2回発行している。編集にあたっては、学生の生活支援等に関するニーズを反映させられるように、共通教育・統合教育科目「広報誌編集実践」受講者を編集委員として参画させ、学生に分かり易く、親しみ易い記事を掲載するよう配慮している（資料 7-2-⑤-L）。

留学生に対しては、国際交流センター及び各学部の担任教員（留学生担当教員・受入指導教員）、留学生支援室、チューター等によって生活上の相談対応や支援がなされている。また、学生なんでも相談室にも英語が話せるカウンセラー（非常勤）を配置している。奨学金等については、留学生支援室が情報提供、応募受付、審査手続き等を行い、関連の委員会による審査に基づいて、文部科学省、財団、三重県等へ推薦しているほか、本学独自の国際交流特別奨学金制度や授業料免除により支援を行っている（資料 7-2-⑤-M）。また、留学生居住用の宿舎も整備して

おり、平成 21 年度には新たに外国人留学生寄宿舍 A 棟・B 棟を設置した（資料 7-2-⑤-N）。

障害のある学生については、障害のある学生が学修及び研究を行う上で必要な支援を行うとともに、全学的立場から障害のある学生に対する生活指導体制を整備することを目的とする障がい学生支援室を学生総合支援センター内に設置し、障害のある学生への支援体制を強化した。

資料 7-2-⑤-A 三重大学学生総合支援センター規程

【別冊 42】大学規則集 p 203～204

資料 7-2-⑤-B 三重大学学生生活支援室規程

【別冊 42】大学規則集 p 205～206

資料 7-2-⑤-C 三重大学障がい学生支援室規程

【別冊 42】大学規則集 p 207

資料 7-2-⑤-D 三重大学学生なんでも相談室規程

【別冊 42】大学規則集 p 208～209

資料 7-2-⑤-E 三重大学キャリア支援センター規程

【別冊 42】大学規則集 p 210～211

資料 7-2-⑤-F 学生総合支援センター概要

<http://www.mie-u.ac.jp/life/about/index.html>

資料 7-2-⑤-G 学生なんでも相談室

<http://www.mie-u.ac.jp/life/consultation/index.html>

資料 7-2-⑤-H 三重大学保健管理センター規程

【別冊 42】大学規則集 p 212～213

資料 7-2-⑤-I 保健管理センター概要

<http://www.mie-u.ac.jp/health/about/post-6.html>

資料 7-2-⑤-J キャリア支援

【別冊 3】学生便覧 p 62～63

資料 7-2-⑤-K リーフレット「STOP! HARASSMENT」



(出典：本学ウェブサイト http://www.mie-u.ac.jp/students/pdf/stop-harassment_2013.pdf)

資料 7-2-⑤-L 三重大学生コミュニティー誌 『MIU (ミウ) 』

<http://www.mie-u.ac.jp/report/miu.html>

資料 7-2-⑤-M 各種奨学制度の案内

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/prospective/scholarships/index.html>

資料 7-2-⑤-N 学生寮及び下宿斡旋

【別冊 3】 学生便覧 p 22

別添資料 7-2-⑤-1 キャリア支援センター（就職支援）概要

別添資料 7-2-⑤-2 インターンシップ支援組織（平成 23 年度～25 年度）

別添資料 7-2-⑤-3 インターンシップ参加状況

別添資料 7-2-⑤-4 生活をする上で必要だと思う大学の支援（平成 24 年度教育満足度調査）

【分析結果とその根拠理由】

教育満足度調査，担任教員等による直接の面談，三重大学生コミュニティー誌「MIU（ミウ）」編集委員への学生の登用などによって，生活支援等に関する学生のニーズを適切に把握している。

学生の修学，就職及び生活等への支援体制としては，学生総合支援センターを設置し，その中に学生生活支援室，障がい学生支援室，学生なんでも相談室，キャリア支援センターの 4 つの施設を置いて，総合的な学生支援を行っているほか，保健管理センターに，教員（医師），看護師等を配置し，学生の健康相談に対応している。

留学生に対しては，国際交流センターの教職員，各学部の担任教員，留学生支援室，チューター等による生活上の相談や支援，奨学金や授業料免除，留学生会館への入居等による経済的な支援がなされている。また，障害のある学生に対しても学内生活環境の改善が進められ，支援は適切になされている。

以上のことから，生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており，生活，健康，就職等進路，各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され，適切に行われていると判断する。

観点 7-2-⑥： 学生に対する経済面の援助が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

平成 17 年度以降，大学院博士課程の学生は独立生計者が多いこと，また，研究生・専攻生・委託生についても，留学生が半数以上を占めることを考慮して，授業料を据え置き，経済的負担の軽減を図っている。

奨学制度は，日本学生支援機構，地方公共団体等のものを利用している。在校生の約 3 分の 1 の学生が奨学生制度を利用している（別添資料 7-2-⑥-1）。

授業料免除は，「三重大学授業料等免除及び徴収猶予取扱規程」に沿って実施され，許可者数は，平成 25 年度には全額免除者は 1,061 名，半額免除者は 55 名を数えた。入学料免除も同様に行っており，平成 25 年度には 53 名の半額免除を行った（資料 7-2-⑥-A，資料 7-2-⑥-B，別添資料 7-2-⑥-2）。

博士課程において、学業成績等優秀学生に対する「博士課程奨励制度」を実施している。これは、医学系研究科博士課程、工学研究科及び生物資源学研究科博士後期課程の成績優秀者各 10 名及び地域イノベーション学研究科博士後期課程の成績優秀者 3 名に対して授業料を免除するものであり、学習奨励と生活支援に大きな役割を果たしている（資料 7-2-⑥-C）。

生物資源学部・研究科においては、将来、農業、畜産もしくは水産の研究または事業を志す学生の就学を支援する奨学金制度として、「渡邊文二奨学金」を設けており、毎年度公募・審査を行い、学部学生 1 人あたり年額 48 万円、大学院生 1 人あたり年額 60 万円の支援（2 年間継続）を行っている（別添資料 7-2-⑥-3）。また、平成 26 年度からは「三重大学大学院生物資源学研究科朝日土木株式会社奨学金」を設け、生物資源学研究科に在学する博士前期課程 1 年次の外国人留学生に対し、年額 60 万円の奨学金を給付している（資料 7-2-⑥-D）。

外国人留学生に向けた本学独自の奨学金制度としては、協定大学からの短期留学生を対象として、年間 20 名に月 2 万円の奨学金を支給する「国際交流特別奨学生制度」や、本学の名誉教授からの寄附金を基に優秀な留学生に対し奨学金を支給「外国人留学生助成金」、「タイ人留学生助成金」を設け、本学留学生に対する経済支援を行っている。

学生寄宿舍は、男子用 1 棟、女子用 2 棟、留学生用 3 棟が設置されている。男子学生寄宿舍は、平成 21 年度に改修を行い、2 人部屋を 1 人部屋とし、居住環境を改善した。女子用と留学生用の学生寄宿舍についてはほぼ 100% 利用されている（別添資料 7-2-⑥-4）。さらに、外国人留学生、短期滞在留学生の生活環境の充実を図るため、借入金を含めた自助努力により留学生宿舍（収容定員 87 人）の新設を進めている。

資料 7-2-⑥-A 三重大学授業料等免除及び徴収猶予取扱規程

【別冊 42】大学規則集 p 214～216

資料 7-2-⑥-B 三重大学入学料免除及び徴収猶予取扱規程

【別冊 42】大学規則集 p 217～219

資料 7-2-⑥-C 三重大学大学院博士課程奨励制度に関する規程

【別冊 42】大学規則集 p 220～221

資料 7-2-⑥-D 三重大学大学院生物資源学研究科朝日土木株式会社奨学金募集要項

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/admission/scholarship/asahidoboku.html>

別添資料 7-2-⑥-1 各種奨学金等利用者数

別添資料 7-2-⑥-2 平成 21 年～25 年度 入学料・授業料免除者数(学部・研究科別)

別添資料 7-2-⑥-3 渡邊文二奨学金制度

別添資料 7-2-⑥-4 学生寄宿舍設置状況及び利用状況

【分析結果とその根拠理由】

奨学制度は、在校生の約 3 分の 1 の学生が日本学生支援機構、地方公共団体等の奨学金を利用しているとともに、入学料、授業料等の免除は、大学の選考基準に基づき実施しており、対象者が増加している。また、学生寄宿舍は計 6 棟設置し、高い利用率を示しており、学生の経済面の援助を適切に行っていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 1) 附属図書館は、「研究支援機能」「学習・教育支援機能」「地域貢献機能」の3つの機能をサービスの3本柱に据え、研究や教育・学習に必要な学術情報を広く収集・提供するとともに、階層ゾーニングによる多用な学習空間を学生及び教職員に対し提供している。
- 2) 障害のある学生が学修及び研究を行う上で必要な支援を行うとともに、全学的立場から障害のある学生に対する生活指導体制を整備するため、障がい学生支援室を設置し、障害のある学生への支援体制を強化している。
- 3) 学生なんでも相談室の設置をはじめ、アカデミックハラスメント、セクシャルハラスメントに関する相談窓口を設置するなど、学生の生活支援のための相談体制を整備し、機能している。
- 4) 学生寄宿舍は、ほぼ100%の利用状況にある。さらに、外国人留学生、短期滞在留学生の生活環境の充実を図るため、借入金を含めた自助努力により留学生宿舍（収容定員87人）の新設を進めている。
- 5) 三重大学独自の奨学金制度「博士課程奨励制度」「渡邊文二奨学金」「三重大学大学院生物資源学研究科朝日土木株式会社奨学金」「国際交流特別奨学生制度」「外国人留学生助成金」「タイ人留学生助成金」を設け、それぞれの事情に応じた適切な経済面の援助を実施している。

【改善を要する点】

該当なし